

FUJI TRAINING ACADEMY



Vol.5 2021.11.08

日本初導入 レオナルド社製AW139型フル・フライト・シミュレータ（FFS） 坂口トレーニングセンター到着



21年6月、弊社パイロットと整備士がカナダで領収検査を行い、その後日本に海上輸送されたレオナルド/CAE社製AW139型模擬飛行装置（フル・フライト・シミュレータ：FFS）が10月下旬に静岡県牧之原市坂口のトレーニングセンターに到着しました。

現在組み立て作業は順調に進み、12月下旬から22年1月初旬に国土交通省の認定検査を受検し、FFS最高位のレベルDを取得予定です。

日本初導入となるこのFFSは、イタリアのレオナルド社がカナダのCAE社と共同で開発、実機を模擬するコックピット、機体の動きを模擬する6自由度のモーション装置、ヘリコプター特有の振動を模擬する3自由度のバイブレーション、そしてビジュアル装置といった高性能装置を備えています。

ビジュアル装置は水平210°、垂直80°の視界を有する10フィートドーム型で、画像をドーム内へ直接投影します。装備された8台のプロジェクターは、LED光源型でIR強度の制御が可能のためナイトビジョンゴーグル（NVGモード時）に対応できます。

教官卓には、タッチセンサー付きモニターが2台設置され、風や視程などの環境設定をはじめ、燃料重量やCGの設定、各システムに関する不具合など訓練に必要な設定が全て行えます。

またマップ画面では飛行航跡やミッションシナリオ時の救助位置の表示やデブリーフィング用の録画も行えます。

このようにFFSレベルDの性能・機能要件を満たしたFFSは、例えば、操縦士の実技訓練に活用することで、これまで安全上の理由から実機では難しかった非常操作の訓練や故障の想定が実態に合った形で模擬することが可能となり、それを反復練習することで訓練の効率アップならびに成果向上が見込まれ、訓練を受ける操縦士の自信に繋がるのが期待でき、安全かつ安定的な運航の確保につながることができます。

同施設内の弊社AW139型飛行訓練装置（フライト・トレーニング・デバイス：FTD）は本年7月より稼働開始して以来、通常操作手順、非常操作手順などの基本操作を反復練習できることから、利用していただいた皆様からは好評をいただいています。

弊社は、22年1月中旬から下旬以降のFFS稼働を目指します。